

次号予告

特集 ソフトウェア信頼性評価法の新潮流

- 品質工学に基づく高信頼性ソフトウェア開発のための人的要因分析高橋宗雄 (桐蔭横浜大学)
ソフトウェア可用性評価のためのアベイラビリティモデル得能貢一, 山田 茂 (鳥取大学)
ニューラルネットワークを適用したソフトウェア信頼性評価手法
.....土肥 正, 尾崎俊治 (広島大学)
ソフトウェアの信頼性実証試験方式澤田 清, 三道弘明 (流通科学大学)
ソフトウェア開発におけるテスト労力最適配分問題山田 茂 (鳥取大学)
一森哲男 (大阪工業大学)

編集後記

- 「自己責任」という言葉を良く耳にするようになりました。そこで、この言葉の意味を自分なりに解釈してみました。「自己責任」とは「情報が公開されている、対象物(例えば金融商品)があり、それを利用するには何らかのリスク(例えば株価の下落による損失)を伴うことが分かっている。このような状況のもとで、それを利用するか否かの意思決定を他人に委ねるのではなく、利用者が主体となって、リスクを承知の上で判断すること」ではないでしょうか。「自己責任」の意味を国語辞書で調べてみたのですが、最新版の辞書ですら掲載されていませんでした。最新の流行語(?)なのですね。
- 先日、この「自己責任」に相当する経験をしました。自宅用のPC(パーソナルコンピュータ)を自作したのです。メーカー製のPCを購入した場合、メーカーによる保証があるため(勿論保証期間内での話ですが)、不具合があればその責任をメーカーに問うことができます。しかし、自作の場合、部品毎の保証はありますがそれらを組合せて作成したPC自体には何の保証もあり

りません。部品の調達から組立、OSのインストールまで、作業全体にリスクがあり、動作の保証は自分自身で行うしかありません。しかし、「自作」という言葉の響きに魅せられて自作の決意(大袈裟ですね)をしてしまいました。この意思決定は、文字どおり「自己責任」を前提としたものに該当するのではないのでしょうか。(不安は沢山ありましたが、結局、何の問題もなく安定して稼動しています。)

●さて、「1999年7月の付く月=今月」は、皆さんもご存知のように「恐怖の大王が地球に降りてくる月」とのことです。果たしてこのようなことが起こるのでしょうか。諸説存在するようですが、どの説を信じるかは「自己責任」で。

●最後に少し宣伝を!本誌掲載の「OR学会だより」は、本年度よりOR学会のホームページ(<http://www.orsj.or.jp>)でもご覧頂けるようになりました。インターネットによる情報発信の利点である「即時性」を生かして、これからも提供情報を充実させていく予定です。ご期待ください。ただし、掲載情報の利用は「自己責任」をお願いいたします!(猿渡康文)

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長 田口 東(中央大学)

委員 北澤英理子(東京ガス(株)), 栗田 治(慶応義塾大学), 猿渡康文(筑波大学), 椎名孝之(財団法人電力中央研究所), 繁野麻衣子(筑波大学), 清水康司(青山学院大学), 田村明久(京都大学), 中川慶一郎(株)NTTデータ), 原 裕淳(株)東芝), 平山克己(住友金属システム開発(株)), 松村良平(東京工業大学), 宮崎知明(富士通(株)), 山下英明(東北大学), 吉野秀明(日本電信電話(株))

本誌に掲載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成11年7月号 第44巻 第7号 通巻463号

代表者 水野 幸男

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル

電話 03-3815-3351(代) FAX 03-3815-3352 〒113-0032

編集人 田口 東

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151-0051

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価970円(本体924円)年間予約購読料11,040円(税含)

●本誌への広告お申し込みは明報社(3546-1337)、日経弘報社(3563-2241)へ